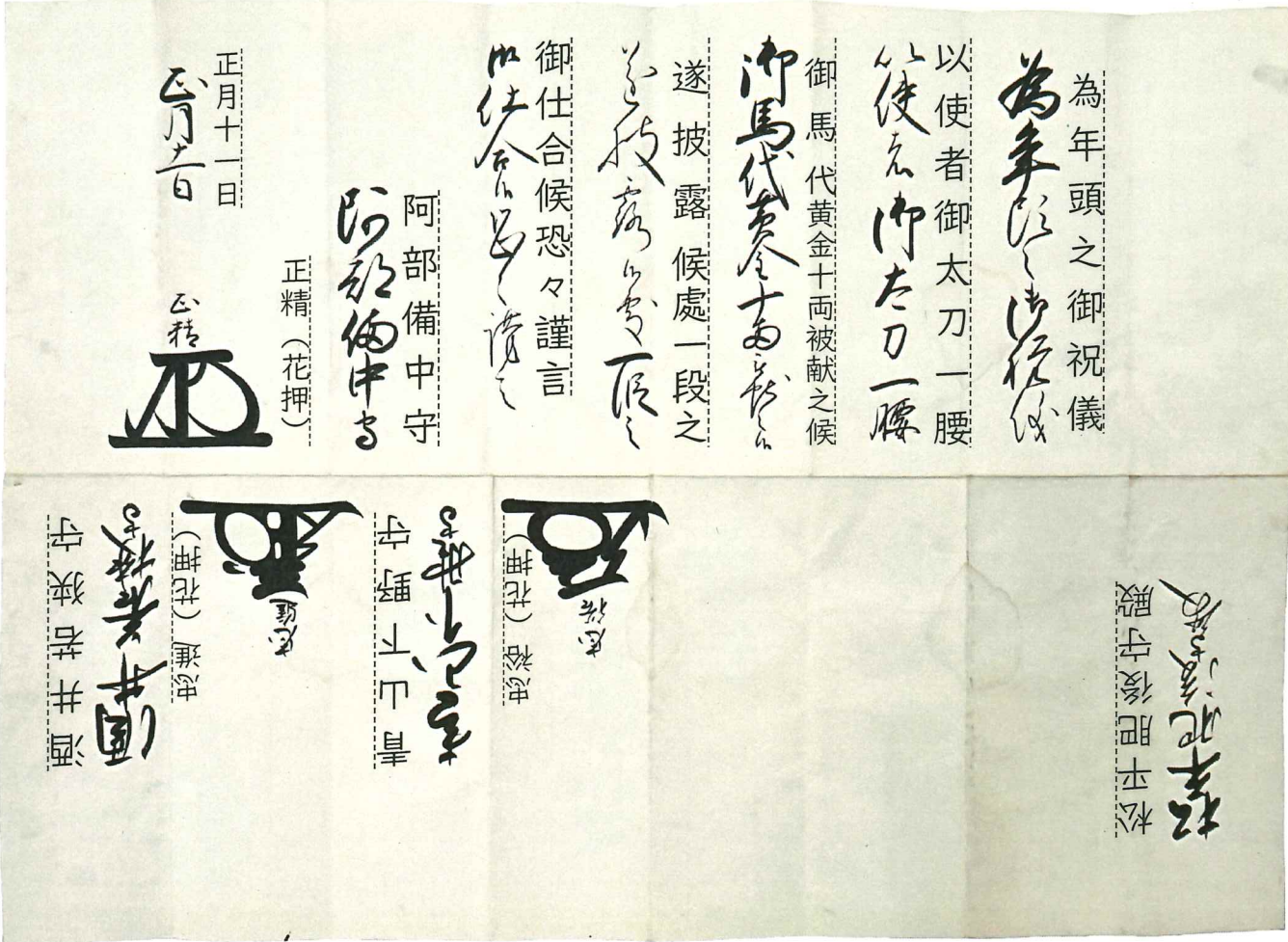


POINT



- ある年の正月十一日に書かれた書状です。
- 差出人は三人の幕府老中（備後福山藩主阿部正精、まさきよ若狭小浜藩主酒井忠進、ただゆき丹波篠山藩主青山忠裕）です。
- 受取人の松平肥後守が、年頭祝儀として將軍に太刀と馬代を献上したことに對する礼状で、將軍の代わりに老中が返事を出しています（江戸幕府老中奉書）。
- 差出人の三人が老中であつた期間から、書かれた時期は文政元年（一八一八）、松平肥後守は会津藩主松平容衆（かたひろ一八〇三～一八二二）と考えられます。



松平肥後守殿

為年頭之御祝儀

以使者御太刀一腰  
使名御太刀一腰

御馬代黄金十兩被献之候  
御馬代黄金十兩被献之候

遂披露候處一段之  
遂披露候處一段之

御仕合候恐々謹言  
御仕合候恐々謹言

阿部備中守  
阿部備中守

正月十一日

正精（花押）  
正精（花押）

松平（花押）  
松平（花押）

青山下野守  
青山下野守

酒井（花押）  
酒井（花押）

酒井若狭守  
酒井若狭守

\* 出題資料は、当館の収蔵資料です。  
(資料番号：H198701180)